

令和2年度指定（グローバル型）

# 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 令和4年度研究開発実施報告書 第3年次



島根県立隠岐島前高等学校

# 目次

## 1 構想概要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書	3
---------------------------	---

## 2 研究開発実施報告

令和4年度 研究開発実施計画書（抜粋）	10
令和4年度 研究開発計画および実施報告	11
研究開発計画1：グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施	
研究開発計画2：国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施	
研究開発計画3：地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施	
研究開発計画4：「伴走者フォーラム」の実施	
研究開発計画5：研究発表会の開催	
研究開発に係る評価	
運営指導委員会記録	

## 3 資料

(1) 構想概念図	38
(2) 事業評価資料	39
(3) 地域との協働による高等学校改革推進事業全国サミット資料	47

# 1 構想概要



## 地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書

### 1 研究開発構想名

離島発 「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

### 2 研究開発の目的・目標

#### (1) 目的

隠岐島前地域（西ノ島町、知夫村、海士町）に位置する本校がその特色を活かしながら目指すグローバル人材像は、「地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を想いながら、世界中で実践者として活躍できる人材」である。

本校ではこれを「グローバル人材」と定義し、グローバルセンスとローカルセンスの両方を持ち合わせた実践者として、地域そして世界の人々から「求められる人材、愛される人材」を育成することが本校の使命であると考えた。

本事業構想の第一の目的は、地域との協働により「地域・社会に開かれたカリキュラム」をつくることである。これまでも地域の諸課題をテーマとする「地域課題解決型探究学習」を実施し、シンガポールでの海外研修で成果発表をしてきた。今回はそういった探究学習と各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係で捉える「地域未来探究」を構築する。

第二の目的は、チーム学校を超えたチーム地域で「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑むことである。開かれたカリキュラムに必要な人的・物的リソースを、地域内外の叡智を結集して効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。

#### (2) 達成目標

本事業構想終了時までには、達成目標として次の定量的目標と定性的目標を達成する。

##### ①定量的目標

本校が目指すグローバル人材に必要な力は「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力である。卒業までに4つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を定量的に調査する。

具体的には80項目のアンケート調査を実施し、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が70%以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が80%以上となるよう数値目標を設定する。

また、生徒が育つ環境を「安心・安全の土壌」「多様性の土壌」「対話の土壌」「開かれた土

壤」と定義し、生徒および大人（コンソーシアム構成員および本校教職員）にアンケート調査を実施する。具体的には、各土壌における生徒の肯定的意見が 80%以上となるよう、そして大人の肯定的意見が 70%以上となるよう数値目標を設定する。そして、上記調査結果を基に地域との協働のあり方の検討や各教科の授業改善に役立てていく。

## ②定性的目標

生徒たちがチームで取り組む「地域課題解決型探究学習」において、生徒たちが考案し実践した内容が、実際に町役場をはじめとする現場で採用され、地域課題解決や地方創生のアイデアとして活用されることが望ましい。そのためには、生徒たち自身がチームで「気づく」→「考える」→「話し合う」→「実践する（巻き込む）」→「振り返る」→「（再び）気づく」というサイクルを何度も周回する必要がある。このサイクル自体の習得を目標としつつ、探究学習終了後に自らの言葉で探究学習の過程やサイクルについて語れることを目標とする。

サイクル周回の過程で教員側に求められることは、失敗への許容である。失敗をしないよう手助けをするのではなく、挑戦を奨励し、失敗を歓迎し、それでも生徒たちが安心・安全の場で「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力を存分に発揮できる環境を構築することを目標とする。

## 3 研究開発の概要

### (1) 研究開発の概要

これまで本校が実施してきた生徒らがチームで挑む「地域課題解決型探究学習」およびシンガポール海外研修での成果発表は継続して実施する。今回の研究開発では、そういった探究学習のプロセスと各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉える「地域未来探究」を構築する。「地域未来探究」では、探究学習に合わせて各教科で島前地域とシンガポールとの比較研究を行うことなどを想定する。これまでも英語科のパフォーマンステストとシンガポールでの最終発表スライドを連携させるなどしてきたが、これを数学や地歴・公民等の複数教科で展開する。そのために必要なリソースを地域内外の叢智を結集して構築する「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑戦する。

### (2) 地域との協働により実施する学習内容と教科・科目における位置付け、相互の関係

教科・科目としては、1年次には「夢探究Ⅰ」を、2年次には「夢探究Ⅱ」を、3年次には「夢探究Ⅲ」、「地域地球学」及び「リベラルアーツ」等の、総合的な探究の時間および学校設定科目を活用して実施する。1年次にはインターンシップも実施する。また、「地域課題解決型探究学習」における導入やメンター役は地域の方々の協力を得ながら実施する。

シンガポール海外研修に向けて、すべての教科で「地域未来探究」として、隠岐島前地域とシンガポールの比較研究等を行う。こうした高校生の経験や学びを地域に循環させるため、地元小中学校との交流事業も「地域未来探究」と称して高校生との交流機会を設ける。

### (3) 他校や他地域への事業成果の普及方策

これまで本校独自で実施してきた「地域・社会に開かれた探究学習成果発表会」は引き続き実施する。また、日常的な探究学習の取組や教科学習との連携は、広くウェブサイト等で周知する。毎年100名近い視察者が訪れる本校の特徴を活かして、視察者に対しても事業成果を広く周知する。

また、連携を念頭に置く地元三町村の小中学校との交流や、包括連携協定校である島根県立大学での大学生との交流等も検討する。また、探究学習における教職員の伴走を探究するため、「伴走者フォーラム」を実施する。

## 4 研究開発の仮説および期待される効果

「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて必要なのは、研究開発の概要でも記載した通り、各教科と探究学習のプロセスをつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉えることである。「地域課題解決型探究学習」に取り組む中でも、探究学習と教科学習を別のものと分断して捉えている生徒もおり、カリキュラム・マネジメントにはまだまだ課題がある。これまで取り組んできた「地域課題解決型探究学習」は、他校に情報提供できるレベルに到達しつつあるが、教科学習とつなげて捉えるレベルには到達していない。生徒たちにはつながりを意識させることで、教室で学ぶことと地域活動で体験的に学ぶことの関連性を見出すなど「つなげて考える力・行動する力」を養うことができる。

## 5 研究開発の実施体制

### (1) 管理機関の実施体制

第一に、「県立高校魅力化ビジョン」において、魅力ある高校づくりに学校と地域の協働体制（高校魅力化コンソーシアム）を全ての高校に構築することとしており、コンソーシアムおよび隠岐島前高校の運営に対する伴走者（管理機関の担当スタッフ）を配置するほか、コンソーシアム運営や教員の育成に係る研修等により取組を支援する。

第二に、運営指導委員会の開催により取組の指導・助言を行うとともに、事業の進捗管理を行う。

第三に、コンソーシアム運営支援事業（県単独事業）等による財政支援（申請に基づき最大760万円/校）を行う。

### (2) 運営指導委員会の構成

運営指導委員会は、スーパーグローバルハイスクール事業の運営指導委員からの流れを汲みながら、下記のメンバーで構成する。

氏名	所属・職	備考
藤井 千春 (運営指導委員長)	学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	本構想全般および研究開発全般に係る指導・助言
山下 一也	公立大学法人島根県立大学 学長代行	地域との協働およびカリキュラムに係る指導・助言
市川 力	一般社団法人みつかる・わかる 代表理事	地域に根ざした探究学習のあり方に係る指導・助言
阿部 裕志	株式会社風と土と 代表 海士町商工会 青年部	地域産業との連携に係る指導・助言
アッシュ ジェームス アレクサンダー	西ノ島町教育委員会 外国語指導助手	隠岐島前三町村連携及び国際連携に係る指導・助言

### (3) コンソーシアムの体制

コンソーシアムは、既にある「島根県立隠岐島前高校魅力化と永遠の発展の会」と「島根県立隠岐島前高校魅力化推進協議会」をベースに再構築し、地域との協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。また、本校の「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を深化・発展させることを念頭に人選を行う。コンソーシアムでは、年度始に当該年度の目標設定を共有し、年に6回程度の会議を設け、進捗状況を報告する。年度末には目標の結果や評価について共有し、次年度以降の指導・助言を受ける。令和4年度のコンソーシアムの構成メンバーは下記の通りである。

機関名	機関の代表者名	
島根県教育委員会	教育長	野津 建二
島根県立隠岐島前高等学校	校長	野津 孝明
公立大学法人島根県立大学	学長	清原 正義
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	代表理事	大江 和彦
隠岐国学習センター	センター長	竹内 俊博
一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム	代表理事	水谷 智之
海士町	町長	大江 和彦
海士町教育委員会	教育長	平木 千秋 / 井筒 秀明
西ノ島町	町長	升谷 健 / 坂榮 一秀
西ノ島町教育委員会	教育長	扇谷 就二
知夫村	村長	平木 伴佳
知夫村教育委員会	教育長	渡部 真也

### (4) 地域協働学習実施支援員等の配置

地域協働学習実施支援員として、校内に「コーディネーター」を4名配置し、地域課題解決型探究学習やカリキュラム開発に係る授業や打ち合わせに参画する。また授業に必要となる地域内外のリソースを学校と結び、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」実現の一翼を担う。

また、海外交流アドバイザーとして、米国出身の「グローバルコーディネーター」を同じく校内に1名配置し、シンガポール海外研修やブータンやロシア、ミクロネシアへの「グローバル探究」における現地調整や交流事業全般を担う。

#### (5) 事業終了後の取組計画

事業終了に関わらず、さらなる地域との協働を目指し、コンソーシアムとの協働による地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント、コーディネーターとしての地域協働学習実施支援員やグローバルコーディネーターとしての海外交流アドバイザーは自主財源で継続する。

本校は離島という立地上、また地域との協働をベースに立ち上がった高校魅力化の発祥地として、今後の学校経営においても地域との協働は不可欠である。「グローバル人材の育成」はすでに地元町村にも浸透しており、「ふるさとや地域を思いながら、自らや地域の特性を活かし、世界中で実践家として活躍できる人材」の育成に引き続き邁進する。

#### (6) 国の指定終了後の事業経費計画

本構想は、これまで本校が実施してきた体制に基づいて企画しているため、指定終了後も事業は継続可能である。事業経費の資金調達については、今後地元三町村と連携して、ガバメント・クラウドファンディングやふるさと納税を活用するかたちで調達できるよう指定期間内に関係部局にはたらきかけていく。資金調達方法については、積極的に勉強会等に参加し、様々な知見を活用して、事業が永続的に継続できるよう鋭意努力する。

#### (7) 学校の実施体制

本構想の研究開発は、「地域協働推進チーム」を中心に「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を目指す。卒業後の人材目標を共有しながら、総合的な探究の時間を中心とした教育課程を目指し、週に1度学年部の教員が全員参画で議論する時間を設ける。また、各学年部をつなぐ役割として、主幹教諭、探究学習推進担当及びコーディネーター4名を配置し、学年横断的に連動・協働を促進する。探究学習における教員の役割を「伴走者」と位置づけ、教員の伴走についても探究し、成果発表を実施する。支援体制としては、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を実現するため専門家の指導・助言を受ける。

#### (8) 地域協働学習実施支援員の学校内における位置付け・役割、活用方法

地域協働学習実施支援員としてコーディネーターを4名配置する。コーディネーターの役割としては、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて、必要な「地域内リソース」と学校をつなぐことはもちろんのこと、地域外にしかない専門家や起業家、大学教授などの「地域外リソース」と学校をつなぐことを想定する。

また、海外研修における現地調整や交渉などグローバルな活用も想定し、コーディネーター4名の



うち半数以上は TOEIC800 点以上を条件とする。

#### (9) 学校における外部有識者等の支援・活用体制

運営指導委員のメンバーである島根県立大学看護学部の山下一也教授には、本校が目指すグローバル人材に必要な資質・能力を共有しながら、地域との協働に係るフィールドワークや授業構成研究等について、年に1～2回来校いただき指導・助言を受ける。

同じく運営指導委員のメンバーでもある一般社団法人みつかる・わかる代表理事の市川力氏には、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて、総合的な探究の時間と各教科の連携、地域との連携などについて指導・助言を受ける。

早稲田大学の平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）講師の平山雄大先生には、専門領域であるブータン王国と本校の共同探究における指導・助言はもちろんのこと、WAVOC が取り組む「体験の言語化」プログラムの本校での展開について指導・助言を受ける。

#### (10) 定期的な確認や成果の検証・評価等を通じた研究開発の進捗管理や改善の仕組み

生徒の成長に係る定期的な確認については、独自に作成した日々の活動におけるルーブリックや振り返りシート等の活用を通して、生徒の状況を把握しながら授業改善を図っていく。

研究開発における検証・評価については、島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用する。本評価システムは、本校が考えるグローバル人材に必要な力である「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力における生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を測定するもので、本構想の検証および評価、その後の改善に活用する。

また教員側も、地域課題解決型探究学習において、どのように伴走するのが効果的かを探究する。探究成果については、広く全国に普及できるよう企画・実施する。

## 令和4年度研究開発計画および実施報告



## 令和4年度 研究開発実施計画書（抜粋）

### 1 研究開発名

離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

### 2 令和4年度の研究開発実施計画

#### （1）グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

生徒が日常的に行う探究学習に対し、地域内外のプロフェッショナルたちが、定期的に伴走できる仕組みを構築していく。また、専門家の力も借りながら、様々な実践や活動を「学び」に落とし込むための「振り返り」の研究をし、それを日々の実践にて試行する。そして、それらを来年度から本格的に始動する地域共創科カリキュラムにも反映していく。

#### （2）国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

海外研修やグローバル探究などの枠を超え、夢探究（総合的な探究の時間）や部活動等の課外活動などにも、海外との交流事業を展開していく。また、昨年度も実施した、県内の高校や他県との高校生同士の他流試合の機会を、引き続き創出していく。

#### （3）地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

コラボレーション授業（「地域の課題・魅力×（複数）教科」、「教科×教科」）を日常のカリキュラムに落とし込む。また、「（小中高連携型の）地域未来探究」について、昨年度は、高校生が小・中学生の探究学習に「壁打ち」する役割としてサポートする機会をつくったが、これも引き続き実施しながら、教科の授業でも小中高生が共に学ぶ機会をつくっていく。

#### （4）「伴走者フォーラム」の実施

本校・本地域を対象にした少人数でのフォーラムと本校・本地域も含めながら広く社会に開く大人数でのフォーラムを2回に分けて実施する。前者は、年度始めに、伴走者であり続けるための「問い」について深めることで、地域・社会に開かれた教育課程を実践し、生徒に関わる近しい大人が、共通理解・共通言語をつくっていくことを目的とし、後者は、本校の実践や専門家・プロフェッショナルの知見・経験などを紐付けながら、「伴走」についてのさらなる進化・深化を目的とする。

#### （5）研究発表会の開催

本事業における研究の成果を生徒の探究成果発表会として実施する。運営指導委員を始め、地域内外にも参加を呼びかけ、今後さらに研究が進む機会とする。実施は3月を予定する。

## 令和4年度 研究開発実施報告

### 研究開発計画1：グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

#### 1. 仮説

グローバルやローカルなフィールドで実際に課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業を受講することで、プロフェッショナルたちのリーダーシップ、思考力や判断力に触れることができる。また、自ら（のチーム）が設定する課題でプロフェッショナルたちの事例を用いながら目の前の課題解決に取り組むことで、地域起業家精神を醸成することができる。

また、地域課題と地球規模の課題とを「結び付けて」考えるべく積極的に外へ飛び出し、「他流試合」の機会を創出することで、また、同様に、同世代との交流を通じ将来のビジョンなどに触れることで、多文化協働の基本姿勢や、物事の真理に迫る力、グローバルにビジョンを創造する力を高める。

#### 2. 実践

今年度は下表の通りグローバルに課題解決に挑む講師を招聘して授業を実施した。

授業内の講話はもちろんのこと、講話後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会もいただいた。

また、3月に実施予定の「探究学習成果発表会」でも運営指導委員の皆様やゲスト講師としてお越しいただく方々にもご参加いただき、探究学習に対するフィードバックやコメントをいただく予定。

いずれの授業でも、本気で挑戦する大人からいい刺激を受け、個々で取り組むマイプロジェクトへとつなげる生徒が複数みられた。

#### プロフェッショナルによる授業等（実施日順）

実施日	講師(敬称略)	所属等	内容	対象
4/11	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	隠岐島前地域の自然環境	3年生選択者 (地域地球学)
4/14			地域のごみ問題	
4/18			海士町の海岸漂着ごみと町のごみ処理	
4/21			地形と暮らし	
4/25	石原紗和子	隠岐ジオパーク推進機構	ジオパーク	1年生全員 (夢探究Ⅰ)
4/28	市川 力	一般社団法人 みつかる+わかる	探究を深めるフィールドワーク	
5/9	松浦道仁	焼火神社	焼火神社の歴史	3年生選択者 (地域地球学)
5/19	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	農業	
6/9			森林	

6/26	平山雄大	お茶の水女子大学 グローバル協力センター	ブータンのGNH	1年生希望者 (グローバル探究)
6~7月	ハワード・ライス	木造ヨット制作専門家	伝統舟復活	3年生選択者 (リベラルアーツ)
7/7	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	生物多様性	3年生選択者 (地域地球学)
7/11	熊平美香	一般社団法人 21世紀学び研究所	リフレクション(振り返り)	1年生全員 (ホームルーム活動)
10/12	浅井峰光	交交 株式会社	隠岐島前地域の電力消費	1年生希望者 (夢探究 I)
11/16	足立 岬	気仙沼まち大学運営協議会	気仙沼まちづくり・復興	2年生全員 (研修旅行)
	芦原昇平	一般社団法人 気仙沼地域戦略		
	岡本貴之	株式会社 岡本製氷冷凍工場		
	藤田一平	有限会社 藤田製函店		
	加藤拓馬	一般社団法人 まるオフィス		
	三浦亜美	一般社団法人 まるオフィス		
	千葉可奈子	一般社団法人 まるオフィス		
	今川 悟	気仙沼市議会議員		
	志田 淳	MEMENTO MORI KSNM DESIGN		
	熊谷俊輔	一般社団法人気仙沼市観光協会		
	小野寺紀子	株式会社オナテラコ・ホレーション		
1/20	藤代圭一	一般社団法人スポーツリレーションシ ップ協会	集中力の磨き方	1年生希望者 (運動系部活動)
3/14 (予定)	藤井千春	早稲田大学 教育・総合科学学術院	探究成果発表の指導・助言	1・2年生全員 (探究成果発表会)
	山下一也	島根県立大学 しまね地域国際研究センター		
	市川 力	一般財団法人 みつかる+わかる		
	阿部裕志	株式会社 風と土と		
	道川一史	海士町立海士中学校		
	水谷智之	一般財団法人 地域・教育魅力化 プラットフォーム		
	熊平美香	一般社団法人 21世紀学び研究所		
	喜多下悠貴	三菱 UFJリサーチ&コンサルティング 株式会社		
	松尾奈美	島根大学 大学院教育学研究科		
	奥田麻依子	カリキュラム開発アドバイザー		
	駿馬敦史	島根県教育庁学校企画課		
	長谷川勇紀	島根県教育庁教育指導課		
3/14 (予定)	真野理佳	西ノ島町コミュニティ図書館	探究成果発表会講演	
3/22 (予定)	田淵六郎	上智大学 総合人間科学部社会学科	探究学習の高大接続	1・2年生全員 (ホームルーム活動)

以下に実施した授業の一部を抜粋して報告する。

(1) 「リベラルアーツ」：「伝統のかんこ舟の復活」(2022. 06～07月)

3年生の選択科目である「リベラルアーツ(学校設定科目)」で、「海の土を育む会」と連携して、「かんこ船」と呼ばれる伝統的な和船について調査を行うとともに、かんこ船を修復することで、地域の暮らしや文化と海との関わりを再発見し、持続可能な地域のあり方を考えた。



修復したかんこ舟  
(山陰中央新報社 2022. 07. 21 掲載)

高齢者を始めとする地域の方々からかんこ船や当時の暮らしについて直接聞き取りを行ったり、アメリカから海士町に移住してきた木造ヨットづくりの専門家であるハワード・ライス氏と使われなくなったかんこ船を修復したりした。これにより、物理的のみならず、情報や文化の観点でもかんこ船の復活・再発見につながった。

(2) 「地域地球学」：「BACK TO THE NATURE」(2022. 11. 15)

3年生の選択科目である「地域地球学(学校設定科目)」で、自然・環境領域のプロフェッショナルによる講義がきっかけとなり、「NPO 法人隠岐しぜんむら」が行う、外来種駆除活動に6名の生徒が参加するようになった。活動の中で、外来種駆除を奉仕活動として実施するだけでは持続可能にはならないので、外来種を活用する活動を行い、その成果を地域の産業文化祭で企画展として広報活動を行った。企画展の出店までに、外来種に関する学習会を3回設け、外来種の生態系に及び巣影響やその利活用についての理解を深めた。活動に参加する生徒たちは、「46億年の果てしなく長い地球の歴史において、人間の歴史はほんのわずかである事、現代の人間の活動がいかに地球の生態系を大きく変えており、人間の活動の責任を人間が自らとっていく必要がある」ということに気づいたことから、自らの活動サークルを「BACK TO THE NATURE ～自然に還る～」という名称をつけて、活動を進めた。



外来種駆除活動の様子  
(隠岐しぜんむらブログより引用)

産業文化祭の企画展では、外来種であるセイタカアワダチソウのお茶を振る舞いながら、お茶や入浴剤として活用できることを伝えるとともに、セイタカアワダチソウを活用した染物体験を行った。

活動に参加した生徒たちは、活動や企画展における様々な人との交流によって、自分たちの活動の意義をより実感するとともに、活動や企画展出店にあたっての反省点も得ることができ、持続可能な活動に向けて、多くの学びを得ることができた。



企画用に作成したチラシと冊子  
(隠岐しぜんむらブログより引用)



活動に参加した生徒ら  
(隠岐しぜんむらブログより引用)

### (3) 研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	○
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

## 研究開発計画2：国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

### 1. 仮説

本校の課題解決型探究学習は、居住地域である隠岐島前地域について扱うことがあるが、これだけではグローバルな視点や視座の移動は見込めない。そこで、国内外の課題解決実践地域との交流事業を実施することで、自然と地域外にも目や耳を向け、それが循環するかたちで隠岐島前地域に資することができる。

また、近隣に高校がひとつしかない現状は、多文化協働力を上げる上でデメリットになる。実際に課題解決に向かう同世代や行動し続けている大人との交流を通して刺激を受け、自らの協働力や探究力を高める機会とすることができる。

### 2. 実践

今年度は海外渡航ができない状況の中でも、オンラインでブータンとの交流を実施し、「グローバル人材」を目指して国内外での知見や事例をどのように地域に活用するのかについて探究する機会を創出した。

第2学年が全員で行く「シンガポール海外研修」については、可能な限り新型コロナウイルス感染症拡大以前の状態に戻し、現地での研修に向けて計画・準備を進めたが、条件が整わず国内での代替研修へと変更した。昨年度は移動範囲の制限等から、島根県内での実施にとどまったが、今年度はより広い地域・視野で越境体験学習を重視したいとの狙いから、研修地を東北・東京と定め、東北芸術工科大学等の協力も得ながら、グローバルな視点で街づくりを主とした研修を行うことができた。

「グローバル探究（ブータン）」では「自然環境の保全」、「伝統文化の継承と推進」を探究テーマとして、選抜された4人の生徒が5月から2月にかけて探究活動を行った。JICA職員やブータン研究者等とのオンライン研修や、隠岐島前地域で探究テーマに関する実践者へのインタビュー等を行い、自国や地域の自然環境及び伝統文化に関する理解を深めた。令和5年3月にはブータン現地で探究テーマに関する発表・意見交換を行うことにより、さらに理解を深め、地域貢献に関して考察を行う。

また、「グローバル探究」における取り組みについて、ブータンからの帰国後に島前地域内で探究成果発表を実施し、島内の関係者とともにこれまでの探究活動での学びを深めるとともに、グローバルな視点に基づいた取り組みに関し、地域への還元活動も積極的に行う予定である。



i) シンガポール海外研修代替研修としての国内研修旅行（2022. 11. 14～18）

(1) 旅程

令和4年11月14日～11月18日 4泊5日

日程	活動	ねらい
11/14 (月)	<p>&lt;午前：移動 隠岐→出雲&gt;</p> <p>&lt;午後：大学・企業訪問&gt;</p> <p>訪問先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学法人島根大学 総合博物館 /次世代たたら協創センター</li> <li>・株式会社島根富士通</li> <li>・株式会社出雲村田製作所</li> </ul>	島根県内の第2次産業やものづくりへの姿勢から、隠岐島前地域における持続可能な課題解決及び価値創造の探究への知見を得る。
11/15 (火)	<p>&lt;午前：移動 出雲→宮城&gt;</p> <p>&lt;午後：大学訪問と探究学習成果発表&gt;</p> <p>訪問先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人東北芸術工科大学</li> </ul>	隠岐島前地域における、課題解決、価値創造の探究・実践活動の中間報告をとおして、今後の活動に向けての「問い」や「地域づくりに関するヒント」を得る。
11/16 (水)	<p>&lt;午前：気仙沼震災と復興に関する研修&gt;</p> <p>訪問先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館</li> <li>・気仙沼 海の市</li> </ul> <p>&lt;午後：気仙沼コース別研修&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本一漁師を大切に作る港町コース</li> <li>(2) 復興から新規事業に取り組む熱い産業コース</li> <li>(3) 歴史と文化、震災前後の変化を感じるコース</li> <li>(4) 移住者と巡る高校生のチャレンジとその他総合コース</li> <li>(5) 風待ちと復興への祈りを込めてコース</li> <li>(6) 様々な世代を越えたチャレンジの連鎖コース</li> </ol>	防災・復興の観点から、現地の方々との対話等を通じて、まちづくり・地域創生について考察する。
11/17 (木)	<p>&lt;午前：移動 宮城→東京&gt;</p> <p>&lt;午後：班別研修 東京都内&gt;</p>	探究的視点で観光地を散策し、互いの気づきや発見を共有する。
11/18 (金)	<p>&lt;午前：移動 東京→米子&gt;</p> <p>&lt;午後：移動 米子→隠岐&gt;</p>	

(2) 目的

シンガポール海外研修の本来の目的は、同じ島でありながら真逆の経済発展を目指すシンガポールを訪問することで、真に「グローバルとは何か」を考える契機とすることであった。また、1年次から取り組んできた島前地域の課題解決型学習について、実践結果の報告をする場とし、その内容を英語でまとめ、外国人相手にプレゼンテーションをすることを目的としていたが、昨年度に続き今年度

も新型コロナウイルス感染症対策の観点から実現するに至らなかった。しかしながら、国内においても宿泊型の研修を実施し、ローカルに浸かりながら、グローバルに活躍する方々等と直接意見交換等を重ねる場を設定することで、グローバルを往還することを主眼に、次の目的を設定して国内代替研修旅行を実施した。

- ① 隠岐島前地域の外に飛び出して、人の営みを通じた現地の自然・歴史・文化・産業・価値観等に触れることにより、島前地域やふるさつを見つめ直す機会とする。
- ② 仙台・東京を訪問し、現地の人々との交流や異文化との接触を体験することにより、「多様性」や「協働性」について新たな発見や感動を促す機会とする。
- ③ これまでのローカルでの課題研究の成果と課題を発表することで、よりグローバル（隠岐島前地域外の実践者や世界の諸課題）な視点で自己や世界を捉え直し、グローバルなフィールドで活躍しようとする意欲を喚起するとともに、自己が進める課題研究に関する、新たな課題や気づき、次へのアクションプランを得る機会とする。

### (3) 概要

#### ① 東北芸術工科大学学生への課題研究発表

東北芸術工科大学に到着し、グループに分かれ、大学生による進行にしたがって、学生交流及び研究成果発表とその質疑応答が行われた。また東北芸術工科大学の創始者は、海士町出身の方というご紹介もあり、グローバルに活躍する先人との縁に生徒たちは感動していた。

大学生は熱心にメモを取りながら生徒の発表等を聴き、自身の実践も踏まえながら生徒たちにフィードバックをしてくださった。

生徒のみならず、引率した教員も生徒と同じように今までの実践を発表し、大学生からフィードバックをもらったり、生徒から意見をもらったりするなど、それぞれの探究を深める機会となった。



東北芸術工科大学での発表の様子

## 発表した生徒の探究テーマ一覧

発表班	研究 チーム No.	発表テーマ
1	2	ありがとうの見える化
	9	海士町の森林状況を広める
	15	離島という環境のなかで海外の文化に触れてもらおう！
2	3	3町村の繋がりをつくる
	11	迷走し色々なことをした結果、観光客や地域の方の役に立ちたい
	14	あまガチャ 観光スポットを紹介するガチャガチャ
3	1	地域の方に笑顔の写真を印刷してお届けする
	6	地域と高校生の繋がりを増やす
	10	古着で人と人をつなぐ
4	5	海洋ごみの活用
	8	より楽しい授業とは何かを考えて、実践する
	13	岩牡蠣の殻を使ったチョークづくり
5	4	海士町内神社の魅力化・活性化
	7	今と物語
	12	お土産シェアハピ会
	16	高校教員の「得意・強み」を活かした地域貢献

### ② まちづくり・復興班別研修

はじめに、気仙沼伝承館で東日本大震災について学んだ。震災当時の映像を見た後、気仙沼向洋高等学校跡地を見学し、各班に分かれて語り部さんの説明を聞きながら震災の悲惨さについての認識を改めた。特に、「この地域の人たちは、ハザードマップを参考に、頻繁に津波の避難訓練をしており、津波襲来時も訓練どおりの場所に逃げが、逃げた場所でも多くの人命を失った。近い将来、地球温暖化の影響で先代が経験してこなかったものが起こるかもしれない。自分の生活拠点の自然災害に対するリスクを把握しておく必要がある。知っているか知らないかでは全然違う。」という語り部さんの言葉に、「これまでの常識や前提を疑い、つねに最適解を考察する」ことの重要性を強く認識する契機となった。

その後、生徒と気仙沼現地のコーディネーターの方との打ち合わせを重ねて考えた、「こだわりのまち歩き」を6班に分かれて実施した。生徒一人ひとりが、事前に考えた問いを頭に置きながら、コースガイドのみなさんに案内してもらった。それぞれのコース概要は次のとおり。

### <まち歩きコース1「日本一漁師を大切にしている港町コース」>

全国から集まる漁師がくつろぐために、銭湯に入ることが慣習になっている。津波によって銭湯が廃業に追い込まれそうになる現状から、存続のために活動が始まった。その活動の考えに居酒屋やバー、ラーメン店等が賛同し、コンテナハウスの店舗を集めて、「みしおね横丁」として賑わいを創出した。随所に漁師を大切にしている気持ちが感じ取れ、まちづくりには相手の気持ちを思いやることが大切だと感じる事ができた。



まち歩きコース1  
「日本一漁師を大切にしている港町コース」

### <まち歩きコース2「復興から新規事業に取り組む熱い産業コース」>

気仙沼市の基幹産業である、漁業を支える藤田製函店と岡本製氷冷凍工場を訪問した。被災直後はいち早い漁業の再開に貢献され、近年では倉庫を活用したトランポリンジムや観光客向けのかき氷キッチンカーの事業に挑戦されている。仕事に対する責任感と新たな価値の創出に挑戦する姿を見て、今後の夢探究（総合的な探究の時間）のアイデアを得ることができた。



まち歩きコース2  
「復興から新規事業に取り組む熱い産業コース」

### <まち歩きコース3「歴史と文化、震災前後の変化を感じるコース」>

日本初の防波堤（フラップゲート）について、「恋人」という言葉を生み出した落合直文の和歌、製氷工場の見学や日本中の漁師でにぎわった太田地区の見学などを行い、数百メートルの間に存在する新しい街並みと古い街並みを比較しながら様々な視点から歴史や文化について学んだ。



まち歩きコース3  
「歴史と文化、震災前後の変化を感じるコース」

### <まち歩きコース4「移住者と巡る高校生のチャレンジコース」>

漁具のアップサイクルに取り組む元ネットTV 製作者、オンラインスクールに取り組む現役大学生の地域おこし協力隊員という多彩な4名の起業家へ問いを投げかけて「チャレンジしたくなる気仙沼」について探究した。



まち歩きコース4  
「移住者と巡る高校生のチャレンジコース」



まち歩きコース5  
「風待ちと復興への祈りをこめてコース」

### <まち歩きコース5「風待ちと復興への祈りをこめてコース」>

気仙沼の文化財となっている建物や街並みを散策しながら、復興祈念公園の高台から震災当時の写真と現在の風景を見比べ、11年という月日の厚みと、自然災害の脅威を学んだ。その後、被災後に元あった建材を用いて再建された武山米店を見学し、今なお残る貴重な建築に触れた。

### <まち歩きコース6「様々な世代を超えたチャレンジの連鎖」>

土地の区画整理で嵩上げされ、商業施設が建設された内湾エリアと、以前は賑わっていたが、現在は空き店舗が多く、後継者不足が深刻になっている八日町エリアとを巡検した。カフェバーに併設して子どもの居場所を手作りで体育館をつくられた方、高齢者の居場所として自身の店舗を利用されている方、サラリーマンからコーヒーショップオーナーへ転身された方など、新たなエリアマネジメントを考えている4名の挑戦家のお話を聞いた。「まちづくりはお金のためではなく、次世代に良いまちを残すためにやっている」という言葉が印象的であった。



まち歩きコース6  
「様々な世代を超えたチャレンジの連鎖」



## ii) グローバル探究（ブータン）

### （1）目的

ブータン王国と隠岐島前地域に共通する魅力や課題について比較探究することで、多文化に関する学びを深めるとともに、地域外やグローバルの視点から得た学びを、隠岐島前地域（ローカル）に還元することで、地域貢献に資することを目的とする。またその過程で生徒の多文化協働力や、粘り強く探究する力を養い、本校が目指す「グローバル人材」に近づくことを狙いとする。上記を踏まえて、今年度は「自然環境の保全」「伝統文化の継承と推進」を主題として探究学習を進めた。

### （2）概要

#### ① ブータンについての学習

ブータンの研究をされているお茶の水女子大学講師の平山雄大氏による講義を通じて、ブータンの国の成り立ちやGNH（国民総幸福）の基本構造についての理解を深めた。またGNHの4つの柱である「持続可能で公正な社会経済開発」、「自然環境の保全」、「伝統文化の継承と推進」、「良い統治」の中から、各自が関心のあるテーマを選んで情報収集を行い、ブータン経済の柱となっている水力発電の現状やインドとの貿易、外交関係などについても理解を深めることができた。



お茶の水女子大学講師 平山雄大氏による講義（GNHについて）の様子

またブータン渡航経験のある青年海外協力隊経験者との交流を行い、

ブータンの民族衣装「キラ」や「ゴ」に実際に触れ、日常生活に民族衣装が溶け込んでいるブータンの生活についても理解を深めた。



民族衣装を着てブータンの日常生活について研修する様子

これらの学習を踏まえ、ブータンのGNHや隠岐島前地域の課題と関連があり、活動に参加する生徒4名の関心分野である「自然環境の保全」、「伝統文化の継承と推進」を探究テーマに設定し、比較探究を主として活動した。

#### ② 隠岐島前地域における探究実践（聞き書き）

上記の探究テーマを深めるために、隠岐島前地域の実践者にインタビューを行い、その記録を聞き書きとして冊子にまとめていく活動を行なった。伝統文化の継承と推進の分野では、隠岐神社（海士町）の村尾茂樹氏、焼火神社（西ノ島町）の松浦道仁氏などにインタビューを行なった。自然環境

保全の分野では、おきしぜんむら（海士町）の福田貴之 氏、知夫村で畜産業を行う日野 昇 氏などにインタビューを行い、隠岐島前三町村全体をフィールドとして探究を行なった。

インタビューでは島前地域における取り組みや課題に加えて、1人ひとりの幸せに対する捉え方についても理解と考察を深めた。また地域の実践者との対話を通じて、生徒自身の幸せに対する捉え方がどのように変化したかについて振り返り、今回の探究で得た記録と考察をもとに冊子の制作を行なった。聞き書きの冊子制作にあたっては、ブータンの高校生が探究学習を実践する際にも活用できるものにするという視点を持ち、日本語版と英語版をそれぞれ作成した。今後ブータンの高校生や先生、島前地域の皆様からのフィードバックを受けて、更に探究を深めていく。



今回の探究で実際に生徒が制作した聞き書きの冊子（一部抜粋）

### ③ ブータンにおける探究実践(海士町主催プログラムへの参加)

令和4年1月より、海士町が受託している「JICA 草の根技術協力事業（ブータン王国における地域課題解決型学習展開事業）」のプログラムに本校生徒4名が参加する形で、令和5年3月5日～3月11日までブータンに滞在する。現地では高校や仏教寺院などへの訪問を予定しており、島前地域で探究してきた成果を発表し、ブータンの皆様から助言をいただくことを通して、更に考察を深める。またその学びを島前地域に還元し、インタビュー等お世話になった地域の皆様への感謝をお伝える機会とする。



現地研修に向けての事前協議の様子

ブータン現地渡航については海士町の事業に参加する形となるが、本校のグローバル探究と密接に関連することから今後も継続的に連携を図り、本校が目指す「グローバル」人材の育成につなげていきたい。

### ブータン現地研修日程（予定）

日程	宿泊地	予定
3/3 (金)	Hotel Monday 羽田空港周辺	・15:15 菱浦発→17:55 七類着(フェリー) ・米子空港内にて夕食 ・20:55 米子発→22:15 羽田着(ANA 便)
3/4 (土)	バンコク市内 ホテル	・10:35 羽田発→15:40 バンコク着(TG-683 便)※昼食機内食 ・バンコク空港よりホテル移動/夕食
3/5 (日)	Gakyil Hotel ティンブー市内	・07:30 バンコク発→09:45 パロ着(KB-153 便) ・パロ空港からティンブー市内へ移動 ・昼食/ブータン民族衣装購入等 ・ティンブー市内散策(仏教寺院や和紙工場等)/夕食
3/6 (月)	Dudjum Paksum Hostel チュカ県ゲドゥ市内	・ブータン教育省表敬訪問 ・ティンブーよりゲドゥ市内へ移動 ※移動途中に昼食 ・ゲドゥ市内散策(企業訪問等)/ 夕食
3/7 (火)	Dudjum Paksum Hostel チュカ県ゲドゥ市内	・Gedu Higher Secondary School で探究成果発表と交流 ・Pakshika Central School で探究成果発表と交流 ・ゲドゥ市内で夕食
3/8 (水)	Gakyil Hotel ティンブー市内	・Pakshika Central School にて礼拝行事に参加 ・ゲドゥ市内より Chukha Central School へ移動/昼食 ・Chukha Central School にて探究成果発表と交流 ・チュカ県教育庁表敬訪問 ・チュカ県よりティンブー市内へ移動/夕食
3/9 (木)	Gakyil Hotel ティンブー市内	・ティンブー市内で探究フィールドワーク ・ブータン教育省、JICA 事務所関係者との夕食会
3/10 (金)	Amu Chencho パロ市内 ファームステイ	・ティンブーよりパロ市内へ移動 ・タクツァン僧院ハイキング ※移動途中に昼食 ・ファームステイのホストファミリーと交流/夕食
3/11 (土)	機内泊	・11:50 パロ発→16:10 バンコク着(KB-153 便)※昼食は機内食 ・バンコク空港内で振り返り/夕食 ・23:15 バンコク発→06:55 羽田着(TG-682 便)
3/12 (日)	-	・09:20 羽田発→10:45 米子着(ANA) ・米子空港から境港へ移動/昼食 ・14:25 境港発→17:05 別府着→17:27 菱浦着

### (3) 研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	◎
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	◎
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	◎



## 研究開発計画3：地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

### 1. 仮説

地域課題解決型学習と教科学習にどのようにブリッジをかけるかはスーパーグローバルハイスクール事業での評価にも示された通りである。本事業では「地域未来探究」と称して総合的な探究の時間と教科学習を「クロス・カリキュラム」のようなかたちで設計することで、生徒たちにブリッジを意識させることができる。

また、日常的にコミュニケーションが少ない教科間コミュニケーションの契機となることや若い教員や講師の多い本校の特性を捉えた人材育成やOJTの機会とすることができる。

### 2. 実践

#### (1) 概要

当初の計画通り、カリキュラム・マネジメントを担当する主幹教諭を配置し、教員研修も複数回実施した。昨年度は、一昨年度構築した「地域未来探究」の枠組みを継承・発展させ、狙いを絞った教育プログラムの開発を行ったことに加え、教科シラバスに「学習内容と日常生活との関連及び活用が期待される場面」を明記させることにより、教科（科目）間のクロス・カリキュラムが行いやすい環境を整理した。今年度は、昨年度までの実績を継承・発展させ「教科学習と探究学習との往還」に主眼を置いたクロス・カリキュラムの実施を推進した。

第1学年に実施する「夢探究Ⅰ（総合的な探究の時間）」と各教科横断で実施した「地域未来探究」では、隠岐島前地域を題材に取り上げ、「地域×教科探究」として、多様な教科・科目の視点を活かしながら、「仮説の設定」または「検証方法の考察」に的を絞った教育プログラムを開発し、実践した。実践した内容は下表のとおり。

	ゼミテーマ	関係教科・科目
①	エネルギーゼミ	理科×数学
②	物語ゼミ	国語×地理・歴史
③	家ゼミ	理科×家庭

①エネルギーゼミは、海士町にある株式会社交交（こもごも）さんにご協力いただき、「問い」の形で生徒にミッション（例：「学校の電力を自給自足するには？」）を投げかけてもらい、そのミッションを達成するための探究活動を進めた。

②物語ゼミでは、「隠岐島前の”あたりまえ”から、”ここにしかない物語”を紡ぐ」というコンセプトで探究活動を進めた。

③家ゼミは、「島前地域に適した”家”とは？」という問いに、様々な観点から探究活動を進めた。



「①エネルギーゼミ」での検証実験の様子



「③家ゼミ」での授業の様子

昨年度から、教科シラバスに「学習内容と日常生活との関連及び活用が期待される場面」を明記させることにより、教師同士が互いの学習内容を俯瞰的に捉える機会が増え、教科（科目）横断的な授業の企画・実施がしやすくなり、教員の自発的なコラボ授業の機会が増えた。



小单元	学習内容	到達目標	身近な生活との関連 活用が期待される場面
多様性と共通性とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育環境に適応した結果、多種多様な生物がいる</li> <li>全ての生物にはいくつかの共通性がみられる</li> </ul>	全ての生物の共通性を理解し、共通の祖先から誕生したことに気づく	形や性質が多様なものから共通性や特徴を見だし、「分類」に役立てることが期待される
細胞に見られる多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の形質には多様性があるが、基本的な構造は共通している</li> <li>細胞は大きく原核細胞と真核細胞に分けられる</li> </ul>	生物の共通性から、共通の祖先から進化したことや細胞の進化の過程について科学的根拠に基づいて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>肉眼では観察できない微生物はほとんどが細菌類で人間生活との関わりも深い</li> <li>疾病の原因物質であるウイルスは「非生物」であるが生物とともに進化(変異)している</li> </ul>

#### 改訂されたシラバスの一部

次に示すのは今年度行われたコラボ授業の一例である。

#### ・イオン半径を求めよう（化学×数学）

塩化ナトリウムの結晶におけるイオン半径を求める単元において、次の流れで行った。

- ①塩化ナトリウムの密度を測定する
- ②単位格子の構造とアボガドロ定数から単位格子の体積を求める
- ③体積から1辺の長さを求める
- ④理論値と求めた数字とを比較する

上記③の過程で、常用対数を用いて値を求めるよう促し、数学的な考え方を活用した授業を展開した。

#### ・喜劇王チャーリー・チャップリン（外国語×世界史）

授業の導入として、チャップリンが生きた時代背景と映画についての説明を世界史の教員が行い、それに対する質疑応答や議論等を、外国語科教員をまじえて行うことにより、外国語教材として扱う喜劇王チャーリー・チャップリンについての内容理解を進めた。

・宇宙エレベーター（外国語×物理）

授業の導入として、天体についての知識の復習（中学校で習った既習事項）や、宇宙エレベーターの構造を、動画を見ながら物理教員が説明した後、宇宙エレベーターについての英語長文を読解し、構造物が高度3万6千メートルである必要性を科学的な視点で理解を深めた。

・素早く情報を伝えるピクトグラム（外国語×情報）

ピクトグラムは情報の授業でも扱う教材である。まず、ピクトグラムについて外国語科授業で扱い、身近にあるピクトグラムを探して発表したのち、この世に存在しない自分のオリジナルのピクトグラムを作り、英語でプレゼンテーションを行った。その後、情報科の授業で改めてピクトグラムについて復習し、理解を深めた。また、SDGsのピクトグラムについても学習し、環境問題にも目を向けさせた。

・紙幣人物伝（外国語×公民）

2025年に大阪万博が開催されるにあたり、新紙幣が製造されることになったとしたらどのような人物・ものを紙幣に載せるのかについて英語で考えて発表した。世界史や日本史の教員から、現在の紙幣にのっている人物の説明や、文化人とはどのような人なのかについて説明を行い、生徒とともに英語で議論した。また、海外ではどのような貨幣が使われているのか、その例を複数提示し、生徒の考えを深めた。最終的に自分たちが考える新紙幣について英語で発表をし、互いに投票をして最もふさわしい紙幣を決めた。

（2）研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	○
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

## 研究開発計画4：「伴走者フォーラム」の実施

### 1. 仮説

事業の成果を発表するのではなく、生徒の探究活動に伴走する大人の挑戦事例や失敗事例を積極的に共有することで、全国の挑戦者や挑戦校を増やすことができ、公教育のアップデートに資することができる。

### 2. 実践

本年度は、以下の日程・内容等で実施した。何れの会も、多くの参加者があり、本校の実践事例の紹介をもとに、探究的な学びや教科横断的な学びについて、議論を深めるとともに、学校を超えた連携体制が構築された。

#### (1) 「先生のマイプロとは？」学び共創オンラインフォーラムの開催

4月17日、本校と隠岐島前教育魅力化プロジェクトの共催で開催し、82名の全国の教育関係者、島前教育関係者、本校の教職員、生徒、保護者、卒業生が参加した。全体発表講師として聖学院中学校高等学校から佐藤充恵氏（理科）、高知県立高知国際高等学校から佐野武氏（数学・理科）、海士町立海士小学校の曾田朱里氏をゲストに迎え、本校の佐藤剛教諭（保健体育・男子バスケットボール同好会顧問）、小林顕史教諭（数学・教務主任）も登壇した。

フォーラムでは、「先生たちが実はやっている挑戦・探究（マイプロ）」について事例発表がされ、本校が今年度から掲げているスローガン「失敗を共に称え合う学校」になっていくための「踏み込み（失敗を恐れずに挑戦すること）」と「振り返り（失敗を失敗のまま終わらせない振り返り）」を盛り込んだ、それぞれの講師が日常行っている挑戦や探究・工夫が発表され、その過程での失敗や学びについて共有した。

全体発表後には、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム理事・会長の水谷智之氏よりコメントをいただいた。



イベント告知

## (2) 教科横断的な授業についての対面イベントの開催

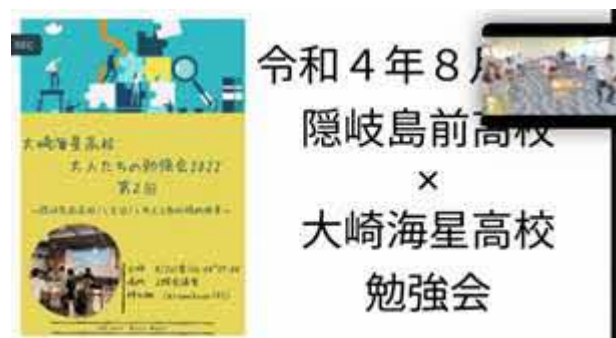
7月29日、本校と隠岐島前教育魅力化プロジェクト、大崎海星高校魅力化プロジェクトの共催で開催し、広島大学学生等 30 名の全国の教育関係者が参加した。本校からは昨年度の探究学習推進担当の吉岡裕司 教諭(理科・化学)が参加し、主に昨年度実施した事例発表を含めて、教科横断による探究的な授業の実施について紹介した。



イベント告知

## (3) 教科横断的な授業についてオンライン勉強会の開催

研究開発計画3で説明した「地域未来探究」の取り組み等を題材にし、島内外の教育関係者と学び合う機会とするオンライン勉強会を、広島県立大崎海星高等学校と共同で8月26日に開催した。当日は主に両校の関係者15名の参加者とともに、主に昨年度実施した事例発表を含めて、教科横断による探究的な授業の実施について議論を深めた。



オンライン勉強会



## 研究開発計画5：「研究発表会の開催」

### 1. 仮説

事業の成果を発表するのではなく、生徒の探究活動に伴走する大人の挑戦事例や失敗事例を積極的に共有することで、全国の挑戦者や挑戦校を増やすことができ、公教育のアップデートに資することができる。

### 2. 実践

#### (1) 失敗の日

##### ①実施目的

「失敗を共に称え合う学校」つくりに向けて、これまでの踏み込みによる失敗を称え合い、これからの踏み込み（挑戦）を、生徒-教職員が一体となって考える機会とする。

##### ②内容及び時程

- ・ 1～4 時 限：授業（授業の導入は必ず失敗体験談から入る）
- ・ 昼 休 み：生徒による失敗ラジオ放送
- ・ 掃除の時間：失敗をテーマにした曲を放送する
- ・ 5 時 限：特別講演（卒業生による、自身の挑戦に関する講話）
- ・ 6～7 時 限：未来への踏み込みを考えるワークショップ

5時限までは、「これまでの踏み込み」による失敗をテーマとし、6～7時限は「これからの踏み込み」を考える時間とした。この時間は、生徒会と教職員とのコラボレーション企画として実施し、生徒と教職員とで作られたチームでの対話を通して、「実は踏み込みたいこと」を共有し、その第一歩は何なのか、それができるとどんな未来につながるのか、などを明らかにする「踏み込みトーク」を行い、同じチームの仲間に協力できることはないかを考えた。この企画により、普段あまり話さない人も含めてお互いを知る良い機会にもなった。ここで話された内容は、踏み込みカードにアウトプットされ、校内に掲示・共有した。



最穂県立麻枝島高等学校

# 失敗の日

失敗を共に称え合い  
次の踏み込みを宣言する一日

10月13日(木)

朝礼	失敗の日 開幕宣言	5限	特別講師による 講演会
1-4限	通常授業 (しくじり先生)	6-7限	未来への踏み込み ワークショップ
昼休み	失敗ラジオ	終礼	失敗の日 閉幕宣言
掃除	応援ソング	放課後	学校Cでも19:30から コンテンツがあります (任意参加)

イベント告知



ワークショップの様子

「来年度の文化祭で、石見神楽と島前神楽をコラボレーションさせたい。一緒にやりたい人は声をかけてください！」「海士町で1番の棋士になりたい。今週末、今1番強い人と対戦してくる。」「プログラミングで仕事を変える。そして人間にしかできない仕事に時間を使う。難易度高め、チーム募集！」など、さまざまな踏み込みが宣言された。



個々の挑戦を可視化・共有する「踏み込みカード」

## (2) 探究学習成果発表会（予定）

生徒たちの1年間の学びを共有し、振り返る場として、「探究学習成果発表会」を3月14日に以下の内容で実施予定。

### ①実施目的

地域の未来を見据えて、理想の探究のあり方を考える。

- ・発表者が、探究学習の発表を通じて成果と今後に向けての課題を見出す
- ・生徒一人ひとりが、今後の探究学習における到達イメージを高める
- ・生徒1人ひとりが、今後の探究学習に生かしたい気づきや学びを見出す
- ・地域の方々に、高校の探究学習の取り組みを知っていただく

### ②内容及び時程（予定）

時程	内容	備考
8:45- 8:50	開会挨拶	
8:50- 9:00	導入	目的、グラドルール確認 コメンテーター紹介

9:00-10:50	分科会発表 6会場 20分×5回(10分発表+10分質疑)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年希望者、2年全チーム発表</li> <li>・小中学生発表者募集</li> <li>・オンラインも活用(東北芸工大に視聴、コメントを依頼)</li> </ul>
10:50-11:15	休憩	
11:15-12:10	大人の全体発表 20分(10分発表/6分質疑/4分コメント)×2組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人、教員の授業探究</li> <li>・発表ごとにコメンテーターよりコメント</li> </ul>
12:10-13:00	昼休憩	
13:00-13:50	共創ワークショップ 踏み込み・振り返り・共に創る・ゲストとの座談会の4企画が展開	
13:50-14:10	休憩・移動	
14:10-15:20	全体発表 20分(10分発表/6分質疑/4分コメント)×3組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3部門の代表チーム</li> <li>・発表ごとにコメント</li> </ul>
15:20-15:35	全体講評	
15:35-16:05	振り返りタイム	
16:05-16:30	閉会挨拶	

### ③ コメンテーター等 (予定)

- ・ 藤井 千春 氏 (早稲田大学教授)
- ・ 山下 一也 氏 (島根県立大学副学長)
- ・ 市川 力 氏 (一般社団法人 みつかる+わかる代表理事)
- ・ 阿部 裕志 氏 (株式会社 風と土と代表取締役)
- ・ 道川 一史 氏 (海士町立海士中学校教頭)
- ・ 水谷 智之 氏 (地域・教育魅力化プラットフォーム理事)
- ・ 熊平 美香 氏 (一般社団法人 21世紀学び研究所 代表理事)
- ・ 喜多下 悠貴 氏 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)
- ・ 松尾 奈美 氏 (島根大学大学院教育学研究科 講師)
- ・ 奥田 麻依子 氏 (カリキュラム開発アドバイザー)
- ・ 駿馬 敦史 氏 (島根県教育庁学校企画課)
- ・ 長谷川 勇紀 氏 (島根県教育庁教育指導課)

### ④大人の全体発表講師

- ・ 真野 理佳 氏 (西ノ島町コミュニティ図書館 いかあ屋 司書)



(3) 研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	○
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	◎
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

## 研究開発に係る評価

### 1. 生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

研究開発における検証・評価については、島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用する。今年度は1回目調査として「①学習活動（明示的なカリキュラム）」、「②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）」、「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して6月に、第2回調査として「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して、調査対象を生徒に限定し、3年生は12月に、1・2年生は2月に実施した。

(1) 1回目調査結果の概略 ※関連資料は p. 39~44

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての 活動指標	③生徒の自己認識	R2年度	64.6 %	78.0 %	63.1 %	69.0 %
		R3年度	69.2 %	79.6 %	65.5 %	73.7 %
		R4年度	<b>69.0 %</b>	<b>76.4 %</b>	<b>73.0 %</b>	<b>69.1 %</b>
	④ 行動実績	R2年度	76.4 %	75.0 %	67.5 %	69.2 %
		R3年度	78.8 %	79.9 %	69.8 %	70.7 %
		R4年度	<b>79.3 %</b>	<b>78.0 %</b>	<b>74.0 %</b>	<b>76.3 %</b>

「③生徒の自己認識」については、すべての項目で75%以上となること目指していたが、「協働性」と「探究性」では上回ったものの、「主体性」と「社会性」では目標に及ばなかった。

「協働性」の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる(91.4%)」で高い数値が出た。探究活動の中で他者の意見に耳を傾けながら異なる意見を尊重する活動の成果が出たものとする。

数値が70%に到達しなかった「主体性」や「社会性」の個別項目を見てみると、「自分にはよいところがあると思う(77.0%)」、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる(78.9%)」、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む(78.9%)」など目標を超えた項目もあったが、「私は自分自身に満足している(50.0%)」という結果から、自分の能力を十分に活かすことができていないと感じる生徒が多いものと推測する。

「社会性」に関わる自己認識は、目標値に達しなかったものの、県内他校に比べて肯定的回答割合が高い。グローバル意識を聞く項目の中でも「地域の課題と世界の課題は関連していると思う(77.6%)」、「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい(77.6%)」といった高いスコアから、本校の取り組みの成果が生徒の期待値として現れているものとする。

「④生徒の行動実績」については、全ての項目で83%以上となることを目指していたが、昨年度同様、全ての項目で目標を上回ることができなかった。しかし、「探究性」については数値が大きく伸

びており、探究的な学習の成果が表れつつあると考えられる。また、「授業でわからないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた(82.9%)」、「友人などから、意見やアドバイスを求められた(78.9%)」、「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた(77.0%)」、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした(87.5%)」となっており、他者と関わりながら探究性を深めていくことができていることが伺える。

調査結果の傾向は過年度と大きく変わらないが、「③生徒の自己認識」及び「④生徒の行動実績」とともに「探究性」のスコアが年度を経るにつれて上昇しており、事業の成果が現れていると分析する。

(2) 令和4年度1回目調査・2回目調査結果の比較 ※関連資料はp.45~46

「③生徒の自己認識」については、「主体性」と「探究性」に関わる自己認識で1年生のスコア低下が目立った。特に主体性の自己肯定感・自己有用感に関する、「自分には良いところがあると思う」や、探究性の情報活用能力に関する「情報を、勉強したことと関連付けて理解できる」のスコアが大きく下がった。半面、2・3年生は「社会性」に関わるスコア上昇が目立つ結果となった。

「④生徒の行動実績」については、全体的に高い肯定的回答割合であるものの、「③生徒の自己認識」同様に1年生のスコアが低下し、2・3年生のスコア上昇が目立つ。

「③生徒の自己認識」と「④生徒の行動実績」とともに、同様なスコア変動がみられた直接的な要因は特定できないが、学年集団の雰囲気少なからず影響しているのではないかと推測される。

2. グローカル志向の指標

下表は、公益財団法人日本英語検定協会主催の実用英語技能検定合格状況をまとめたものである。過去4年間を比較すると、技能検定へ挑戦する生徒数及び合格者数が増加しており、グローバル・コミュニケーションへの関心の高まりがうかがえる。

実用英語検定合格者数推移

	令和4年度				令和3年度				令和2年度				令和元年度			
	1回	2回	3回	合計	1回	2回	3回	合計	1回	2回	3回	合計	1回	2回	3回	合計
2級	7	1	2	10	6	1	0	7	2	4	5	11	6		1	7
準2級	6	3	10	19	7	2	5	14	4	4	8	16	1	1	4	6
3級	4		2	6	0	3	0	3	0	1	0	1	0		3	3

### 3. 令和4年度の目標設定値と達成状況

指標	目標	達成状況
卒業後のグローバルな進路選択者(スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合)	15%	16.4%(9名)
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数(関係人口数)	15人	70人 (46.1%)
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が70%以上	75%	主体性:69.0% 協働性:76.4% 探究性:73.0% 社会性:69.1%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	83%	主体性:79.3% 協働性:78.0% 探究性:74.0% 社会性:76.3%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上	90%	主体性:89.6% 協働性:93.4% 探究性:89.3% 社会性:91.9%
伴走者フォーラムへの参加者数	30人	127人
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌をつくる大人の肯定的意見が85%以上	85%	主体性:89.2% 協働性:91.3% 探究性:72.5% 社会性:84.4%

## 運営指導委員会記録

### 第1回 運営指導委員会

#### (1) 内容

日時： 令和4年7月12日（火） 8:45～ 9:35

#### 次第： 1. 開会行事

- ① 校長挨拶
- ② 委員紹介
- ③ 事務連絡

#### 2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

- ① 令和4年度研究開発の概要
- ② 令和4年度研究計画
- ③ 令和4年度実施状況
- ④ その他

#### 3. 閉会行事

#### (2) 運営指導委員からの主な指導・助言

本会は、新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）の運営指導委員会も兼ねて実施した。両委員から、地域との協働による高等学校教育改革推進事業での取り組み成果を、普通科改革事業において新設した「地域共創科」での探究活動での継承を望む声が多数上がった。

### 第2回 運営指導委員会（予定）

#### (1) 内容

日時： 令和5年3月14日（火） 8:45～ 9:35

#### 次第： 1. 開会行事

- (1) 校長挨拶
- (2) 事務連絡

#### 2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

- (1) 令和4年度実施状況
- (2) その他

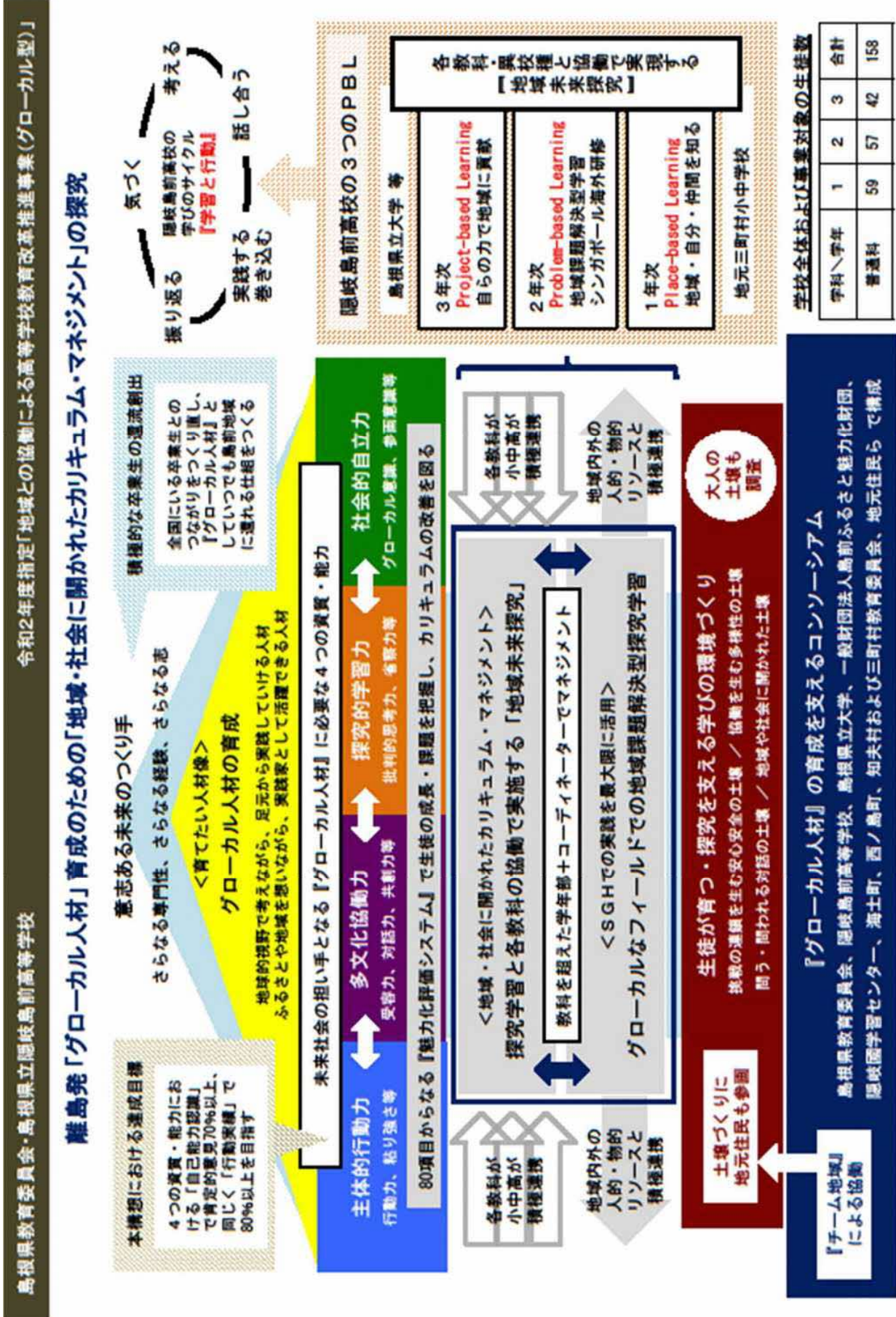
#### 3. 閉会行事

#### (2) その他

本会も新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）運営指導委員会と兼ねて実施する予定

## 資料







## (2) 事業評価資料

### 令和4年度 高校魅力化評価システム（6月実施）結果

#### Portfolio of sustainable education and community 高校魅力化評価システム 組織診断レポートオリオ

高校名	藤原国立藤原高等学校					
年度	2022年度					
回答者数	生徒・学生	132 (内訳) 1年生 48	2年生 55	3年生 49	4年生 0	5年生 0
	(内訳)	1年生 57	2年生 54	3年生 28	4年生 0	5年生 0
大人	40 (内訳) 教職員 27	(評年度)	一人	47 (内訳) 教職員 25		

(MEMO)  
調査項目、育てたい生徒像など

#### Summary 総括表

今年度の進捗 (まとも)	主体性	協働性	探究性	社会性
1 学習活動	3	4	3	3
2 学習環境	4	4	4	4
3 自己認識	3	3	3	3
4 行動実践	2	3	3	3
5 ウェルビーイング	2	4	3	3

※学習活動の回答割合(60%未満)は100-60%×20%×60%×80%×80%×4=



【学習活動】「学習環境」読み取り・修訂の視点  
・ 習熟の進みや課題、それを支援/克服するための、生徒のあり方は？  
・ 習熟から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その意識は出ていますか？  
・ 協働を支えるコーディネーターネットワーク構築として、どのような役割が必要か？

#### How to read

このレポートオリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面を  
4つの領域から  
3つの軸で
- 各校、地域の状態を、「学習環境」(3)生徒の自己認識」「(4)生徒の行動実践」(4)生徒の行動実践」の5つから把握しています。
- 各活動を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの領域・能力に関する領域に分類しています。
- 上記のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(地域域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】
- 各項目で「4、あてはまる」「3、どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 「あてはまらない」「1、あてはまる=4」の回答の平均値
- 同じ機会に調査を実施した他の回答者の平均値
- 【地域域】
- (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者における割合

■読み・伸びしろ

伸びしろ：前年度調査結果との比較

伸びしろ：前年度調査結果との比較

伸びしろ：前年度調査結果との比較

■総合的な大人の満足度

この地域を卒業する場所として  
おすすめできる  
この学校に就いてよかった  
この学校を卒業しやすいため  
この学校を卒業しやすいため

満足度

70.0%

66.4%

97.5%

82.5%

■総合的な生徒の満足度

生活全般の満足度(0-10で評価)

満足度

66.4%

88.2%

86.8%

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

■今年度の結果

【学習活動】「学習環境」読み取り・修訂の視点  
・ 習熟の進みや課題、それを支援/克服するための、生徒のあり方は？  
・ 習熟から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その意識は出ていますか？  
・ 協働を支えるコーディネーターネットワーク構築として、どのような役割が必要か？

【自己認識(探究・能力の発揮)】  
・ 生徒の自己認識に関する具体的な行動は？  
・ 生徒の自己認識とどの関係は？  
・ 具体的な行動を促すような、学習環境や学習環境づくりはできているか？

【自己認識(探究・能力の発揮)】  
・ 生徒の自己認識に関する具体的な行動は？  
・ 生徒の自己認識とどの関係は？  
・ 具体的な行動を促すような、学習環境や学習環境づくりはできているか？

【自己認識(探究・能力の発揮)】  
・ 生徒の自己認識に関する具体的な行動は？  
・ 生徒の自己認識とどの関係は？  
・ 具体的な行動を促すような、学習環境や学習環境づくりはできているか？

【ウェルビーイング】読み取り・修訂の視点  
・ 学習環境や大人のあり方との関係は？  
・ 生徒の購買力との関係は？  
・ ウェルビーイングの観点を学校目標にどう位置づけていくか？

【ウェルビーイング】読み取り・修訂の視点  
・ 学習環境や大人のあり方との関係は？  
・ 生徒の購買力との関係は？  
・ ウェルビーイングの観点を学校目標にどう位置づけていくか？



# Details 詳細結果

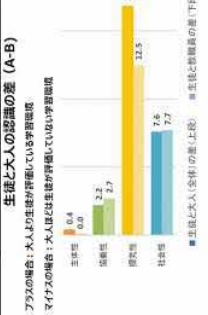
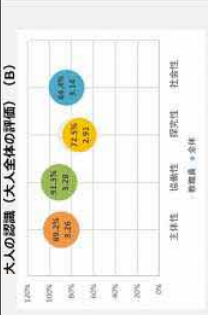
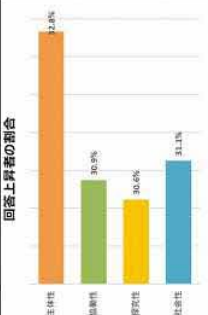
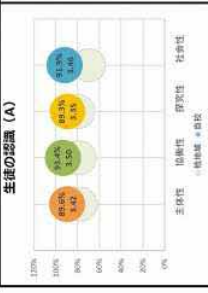
## ① 学習活動（明示的なカリキュラム）

	全校			1年生 (2022入学生)			2年生 (2021入学生)			3年生 (2020入学生)		
	割合(%)	差(p)	差(p)	割合(%)	差(p)	差(p)	割合(%)	差(p)	差(p)	割合(%)	差(p)	差(p)
● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少	73.7%	3.18	23.34	76.0%	2.36	20.68	71.8%	-1.87	28.4%	73.5%	5.88	18.11
<b>主体性に関わる学習活動</b>												
5 自主的に調べものや教材を行う	78.9%	0.53	12.79	70.8%	-13.38	6.55	80.0%	-4.21	23.5%	85.7%	13.49	21.43
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	68.4%	5.83	33.90	81.3%	18.09	34.82	63.6%	0.48	33.3%	61.2%	-1.74	14.80
<b>協働性に関わる学習活動</b>												
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	88.8%	-1.83	5.22	93.8%	2.52	2.68	86.7%	5.38	33.3%	85.0%	4.17	5.87
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	92.1%	5.05	3.61	95.8%	6.36	8.33	92.7%	3.25	27.5%	83.7%	-7.07	-7.40
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	80.3%	10.48	28.48	79.2%	16.01	20.24	78.2%	15.02	49.0%	83.7%	13.30	24.74
<b>探究性に関わる学習活動</b>												
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	69.7%	2.11	6.72	68.8%	2.08	9.82	61.8%	-4.85	43.1%	79.6%	12.93	20.66
11 話し合った内容を発表する	84.9%	3.57	7.28	87.5%	12.06	10.71	80.0%	4.56	35.3%	87.8%	0.72	10.97
12 活動、学習のまとめを発表する	75.7%	-2.76	10.38	72.9%	4.50	10.42	72.7%	4.31	41.2%	81.6%	-5.40	19.13
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	81.6%	3.16	13.75	81.3%	0.55	9.82	81.8%	1.12	29.4%	81.6%	3.85	10.20
<b>社会性に関わる学習活動</b>												
14 地域の魅力や資源について考える	78.5%	4.17	26.54	77.1%	7.49	16.96	79.4%	9.80	43.1%	78.9%	-4.42	18.79
15 地域の課題や資源について考える	86.8%	5.55	34.07	91.7%	17.98	23.81	85.5%	11.77	43.1%	83.7%	-8.92	15.82
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	82.9%	3.76	27.22	77.1%	6.91	14.58	89.1%	18.92	49.0%	81.6%	-9.11	19.13
	65.8%	3.20	18.33	62.5%	-2.41	12.50	63.6%	-1.28	37.3%	71.4%	4.76	21.43

※3年生、4年生の回答は学習科目「工業簿記」の回答から算出された。

② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

項目	生徒の認識 (A)		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	生徒と大人の差 (A-B)	生徒と大人の差 (A-B)
10pt以上の満足	0-10ptの満足	減少	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
<b>生活性に関する学習環境</b>	12.39	4.78	89.2%	-0.09	89.5%	0.4pt
20 家族が安心して安全・安心な雰囲気がある	6.86	6.86	82.5%	-4.73	81.5%	5.7pt
21 家族が安心して、応援する雰囲気がある	7.62	4.58	100.0%	10.64	100.0%	-4.6pt
33 目標や得意な科目を持って挑戦している人がある	4.09	13.58	92.5%	3.14	96.3%	2.2pt
34 地域に、尊敬されている偉人がある	7.00	21.79	-	-	-	-
30 人の挑戦に誇りを覚える機会がある	0.39	26.35	75.0%	-7.98	74.1%	14.1pt
26 自分が何かに挑戦しようと思えば、周りが手を差し伸べてくれる	2.71	4.95	90.0%	-1.49	88.9%	5.2pt
35 周りの大人は、自分に関心を持って自分自身を応援している	-	8.53	95.0%	-	96.3%	-1.6pt
36 年長の職員が学校の意思決定に反映される雰囲気がある	-	9.45	-	-	-	-
<b>運動性に関する学習環境</b>	6.19	14.76	91.3%	6.14	90.7%	2.2pt
22 人と遊べることが多い雰囲気がある	6.91	15.44	97.5%	3.88	96.3%	0.30
23 遊びのほかに自分が増える空間がある	7.93	9.91	90.0%	15.53	92.6%	4.59
27 自分が好きなことや得意なことを伸ばしている	4.75	13.59	90.0%	0.64	85.2%	5.4pt
28 目標や得意な科目を持って挑戦している人がある	5.18	20.08	87.5%	4.52	88.9%	3.3pt
<b>探究性に関する学習環境</b>	5.14	9.58	72.5%	1.22	76.9%	2.85
17 本題を気取らずに発言できる雰囲気がある	4.83	4.84	65.0%	11.81	70.4%	14.37
18 将来のことや夢、目標について話し合える人がある	4.17	9.56	67.5%	-4.84	66.7%	18.7pt
24 周りの大人は、自分の話を聞き、考えの手助けをしている	6.37	7.58	82.5%	-2.61	86.9%	10.9pt
31 自分に興味があることについて話し合える機会がある	5.18	16.35	75.0%	0.53	81.5%	15.8pt
<b>社会性に関する学習環境</b>	5.43	22.33	84.4%	-6.58	84.3%	12.5pt
19 自分が大切にしていることを人に教えられる	4.75	12.53	90.0%	-3.62	88.9%	7.6pt
25 目標を持って行動している人がある	5.59	18.07	80.0%	-13.62	85.2%	14.1pt
29 地域の人や地域が大切にしていることがある	7.09	30.16	77.5%	-9.73	74.1%	19.3pt
32 自分の好きなことや得意なことを伸ばしている	4.29	28.56	90.0%	0.64	88.9%	-5.1pt



項目	生徒と大人の差 (A-B)		生徒と大人の差 (A-B)	
	生徒と大人の差 (A-B)	差 (pt)	生徒と大人の差 (A-B)	差 (pt)
5 家族が安心して挑戦することができる	0.4pt	0.0pt	0.4pt	0.0pt
13 目標を持つ人に対して、応援する人がある	5.7pt	6.7pt	5.7pt	6.7pt
6 目標や得意な科目を持って挑戦している人がある	-4.6pt	-4.6pt	-4.6pt	-4.6pt
7 自身の挑戦に、周囲を巻き込んでいる	2.2pt	-1.6pt	2.2pt	-1.6pt
14 自分が何かに挑戦しようと思えば、手差し伸べてくれる	13.2pt	14.1pt	13.2pt	14.1pt
22 子どもの自己決定を尊重している	4.1pt	5.2pt	4.1pt	5.2pt
8 人と遊べること、喜びが溢れる雰囲気がある	2.2pt	2.7pt	2.2pt	2.7pt
9 遊びのほかに自分が増える空間がある	-2.1pt	-0.9pt	-2.1pt	-0.9pt
15 自分が好きなことや得意なことを伸ばしている	2.1pt	-0.5pt	2.1pt	-0.5pt
16 目標や得意な科目を持って挑戦している人がある	5.4pt	10.3pt	5.4pt	10.3pt
10 本題を気取らずに発言できる	3.3pt	1.9pt	3.3pt	1.9pt
11 地域に、目標や得意な科目を持って挑戦している人がある	16.5pt	12.5pt	16.5pt	12.5pt
17 自分が大切にしていることを人に教えられる	18.7pt	19.5pt	18.7pt	19.5pt
18 将来のことや夢、目標について話し合える人がある	10.9pt	4.5pt	10.9pt	4.5pt
19 自分が大切にしていることを人に教えられる	15.8pt	9.3pt	15.8pt	9.3pt
20 地域の人や地域が大切にしていることがある	7.6pt	7.7pt	7.6pt	7.7pt
21 目標を持って行動している人がある	5.4pt	6.5pt	5.4pt	6.5pt
29 地域の人や地域が大切にしていることがある	14.1pt	8.9pt	14.1pt	8.9pt
12 自分が好きなことや得意なことを伸ばしている	19.3pt	15.9pt	19.3pt	15.9pt
	-5.1pt	-4.0pt	-5.1pt	-4.0pt



③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少

項目	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体 割合(%)	昨年比との差 差(pt)	他校との差 差(pt)	学年 割合(%)	差(pt)	昨年度入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	差(pt)	1年次との差 差(pt)	学年 割合(%)	差(pt)	2年次との差 差(pt)
<b>主体性に関わる自己認識</b>	69.0%	0.23	1.14	63.1%	-12.09	4.68	75.6%	0.40	23.2%	67.3%	3.06	8.93
【自己肯定感・自己有用感】	63.5%	-5.22	1.52	54.2%	-20.39	-0.30	74.5%	-0.02	25.5%	60.2%	-2.76	5.74
51 自分にはいじょうがあると思う	77.0%	-5.76	4.02	79.2%	-6.80	7.74	80.0%	-5.96	27.5%	71.4%	-10.05	0.00
52 私は、自分自身に満足している	50.0%	-4.68	-0.99	29.2%	-33.99	-8.33	69.1%	5.93	23.5%	49.0%	4.54	11.48
【課題設定力】	78.9%	6.29	6.81	70.8%	-4.61	6.55	87.3%	11.83	31.4%	77.6%	7.18	13.27
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	78.9%	6.29	6.81	70.8%	-4.61	6.55	87.3%	11.83	31.4%	77.6%	7.18	13.27
40 目標を設定し、確実に行動することができる	64.1%	2.99	0.68	59.4%	-13.43	13.84	69.1%	-3.72	18.6%	63.3%	5.86	15.05
63.8%	2.66	1.38	1.33	56.3%	-13.93	8.04	70.9%	0.73	15.7%	63.3%	9.56	20.41
64.5%	3.32	-0.03	-0.03	62.5%	-12.94	19.64	67.3%	-8.17	21.6%	63.3%	9.56	20.41
74.3%	-0.12	-1.60	-0.45	71.9%	-6.20	-0.45	77.3%	-0.80	21.6%	73.5%	2.17	1.15
78.9%	-4.51	-1.57	-1.57	75.0%	-10.96	-5.36	83.6%	-2.33	19.6%	77.6%	-3.93	-2.81
69.7%	4.27	-1.63	-1.63	68.8%	-1.43	4.46	70.9%	0.73	23.5%	69.4%	8.28	5.10
<b>協働性に関わる自己認識</b>	76.4%	-0.10	1.65	74.6%	-6.47	1.01	81.1%	0.04	23.5%	73.1%	1.58	-0.51
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.4%	0.80	-1.55	91.7%	-1.32	0.60	90.9%	-2.07	17.6%	91.8%	1.10	0.77
88.2%	-4.65	-0.99	-0.99	87.5%	-3.73	-7.14	90.9%	-0.32	17.6%	85.7%	-6.88	-8.93
88.2%	-4.65	-0.99	-0.99	87.5%	-3.73	-7.14	90.9%	-0.32	17.6%	85.7%	-6.88	-8.93
69.4%	5.02	8.80	8.80	64.6%	-8.22	8.33	77.3%	4.47	25.5%	65.3%	7.90	9.06
77.0%	3.59	10.22	10.22	75.0%	-3.95	8.93	81.8%	2.87	23.5%	73.5%	4.95	7.40
61.8%	6.45	7.38	7.38	54.2%	-12.50	7.74	72.7%	6.06	27.5%	57.1%	10.85	10.71
63.8%	-6.69	-6.84	-6.84	64.6%	-10.86	-5.06	69.1%	-6.35	31.4%	57.1%	-2.12	-12.50
63.8%	-6.69	-6.84	-6.84	64.6%	-10.86	-5.06	69.1%	-6.35	31.4%	57.1%	-2.12	-12.50
<b>探究性に関わる自己認識</b>	73.0%	3.19	4.42	71.9%	-3.10	13.18	73.6%	-1.73	26.3%	73.5%	8.41	13.19
74.1%	0.26	3.32	3.32	75.7%	-6.76	14.98	72.7%	-9.73	20.3%	74.1%	9.33	13.44
71.7%	3.37	-2.24	-2.24	62.5%	-16.45	12.50	78.2%	-0.77	19.6%	73.5%	16.06	23.47
72.4%	-3.89	13.63	13.63	83.3%	0.88	17.26	65.5%	-17.00	15.7%	69.4%	-0.98	3.32
78.3%	1.31	-1.44	-1.44	81.3%	-4.71	15.18	74.5%	-11.42	25.5%	79.6%	12.93	13.52
75.0%	7.73	4.18	4.18	77.3%	0.27	15.92	77.3%	3.59	30.4%	73.5%	9.58	15.43
81.6%	7.48	3.99	3.99	87.5%	12.06	23.21	83.6%	8.20	37.3%	73.5%	-2.46	9.18
68.4%	7.99	4.37	4.37	60.4%	-11.51	8.63	70.9%	-1.02	23.5%	73.5%	21.62	21.68
68.1%	5.99	7.23	7.23	61.5%	-1.86	8.04	71.8%	14.39	37.3%	70.4%	6.39	13.27
51.3%	5.99	5.88	5.88	43.8%	-1.86	8.04	60.0%	14.39	37.3%	49.0%	6.39	13.27
84.9%	-	8.59	8.59	79.2%	-	-	83.6%	-	-	91.8%	-	-
75.7%	0.12	2.59	2.59	77.1%	-0.11	7.44	72.7%	-4.47	25.5%	77.6%	5.33	7.91
75.7%	0.12	2.59	2.59	77.1%	-0.11	7.44	72.7%	-4.47	25.5%	77.6%	5.33	7.91
<b>社会性に関わる自己認識</b>	69.1%	-4.70	5.33	69.3%	-10.91	1.30	69.6%	-10.64	21.7%	68.5%	0.28	0.44
67.3%	-4.14	7.24	7.24	70.8%	-8.70	8.93	67.9%	-11.65	19.6%	63.3%	-2.17	1.36
60.5%	-1.34	16.49	16.49	62.5%	-5.92	17.86	56.4%	-12.06	23.5%	63.3%	7.71	18.62
70.4%	-5.86	6.26	6.26	77.9%	-7.13	5.65	74.5%	-9.67	15.7%	59.2%	-14.89	-12.24
71.1%	-5.21	-1.03	-1.03	72.9%	-13.05	3.27	72.7%	-13.24	19.6%	67.3%	0.68	-2.30
74.1%	-4.53	7.74	7.74	71.5%	-11.51	-2.28	75.8%	-7.28	22.9%	74.8%	-1.71	1.02
58.6%	-8.35	10.79	10.79	50.0%	-20.18	-5.36	61.8%	-8.36	23.5%	63.3%	0.30	7.91
78.9%	-5.23	7.75	7.75	79.2%	-13.82	0.60	80.0%	-12.98	19.6%	77.6%	-5.78	-1.02
84.9%	-0.02	4.67	4.67	85.4%	-0.55	-2.08	85.0%	-0.51	25.5%	83.7%	0.34	-3.83
67.1%	-5.08	3.23	3.23	65.3%	-13.08	-2.58	67.9%	-10.48	22.9%	68.0%	3.83	0.17
77.6%	-6.54	8.88	8.88	81.3%	-9.98	0.89	72.7%	-18.50	13.7%	79.6%	-0.04	-0.77
46.1%	-7.98	8.55	8.55	77.1%	-14.14	2.08	78.2%	-13.05	17.6%	77.6%	3.48	2.55
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	46.1%	-7.98	8.55	77.1%	-14.14	2.08	78.2%	-13.05	17.6%	77.6%	3.48	2.55
67.4%	-0.71	-7.75	-7.75	37.5%	-15.13	-10.71	52.7%	0.10	37.3%	46.9%	8.05	-1.28
66.4%	-5.23	2.01	2.01	69.8%	-10.03	1.04	65.5%	-14.37	21.6%	67.3%	1.61	-1.40
60 地域文化や暮らし、自分の手で未来に伝えたい	66.4%	-1.90	8.67	70.8%	-9.87	4.76	63.6%	-17.07	17.6%	65.3%	4.20	-0.77
68 自分の将来について明るい希望を持っている	68.4%	-8.56	-4.65	68.8%	-10.20	-2.68	67.3%	-11.67	25.5%	69.4%	-0.98	-2.04